

# 担い手の育成に資する IT 等を活用した 新しい生産システムの開発(新規)

【604(0)百万円】

## 対策のポイント

国内農業の体質強化の上で重要な課題となる大幅な生産コストの縮減のため、人工衛星データ等を活用した超低コスト栽培技術を開発します。

(人工衛星データの活用)

人工衛星データを使うと、適切な収穫時期がわかります。

人工衛星 ALOS の画像からは 2.5m のサイズで識別が可能です。

## 政策目標

生産費を半減する超低コスト生産モデルを5年後に確立

### < 内容 >

1. 稲・麦・大豆の汎用不耕起直播栽培技術等による水田輪作体系の確立  
担い手の規模拡大やコスト競争力の強化に向け、作業を大幅に省力化する不耕起直播栽培技術、作業ピークの軽減に有効な品種等を組み合わせた超低コスト生産モデルを提示します。
2. 人工衛星データを活用した低コスト大規模畑輪作体系の確立  
北海道畑輪作の更なる規模拡大と低コスト化に向け、馬鈴しょと麦栽培の作業ピークの軽減技術、衛星データを活用した収穫適期を判別する技術等を組み合わせた、超低コスト生産モデルを提示します。
3. 収穫・選果作業ロボット技術等を活用した低コスト施設園芸体系の確立  
施設園芸の規模拡大の障害となる収穫・選果作業の効率化に向け、果菜類収穫ロボットや高性能選果機を用いた新たな栽培体系を確立し、労働時間の半減モデルを提示します。

### < 実施主体等 >

実施主体 独立行政法人、都道府県、大学、民間等  
実施期間 平成19年度～平成23年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課 (03-3501-0966(直))]